

今月のエキゾチック症例(第11回 2024年4月)

鳥類の粥状動脈硬化症



図 1. コザクラインコ, 心臓背側面, ホルマリン固定後写真. 矢印で示す大動脈と左右腕頭動脈において、動脈壁の硬化がみられます。



図 2. 左側腕頭動脈縦断像, 組織写真, 低倍像. 動脈の内腔(*)が内膜/中膜の肥厚(粥腫、アテローム)により重度に狭窄しているのがわかります。点線は正常時の動脈内腔ラインを示します。

粥状動脈硬化症は、動脈内膜および中膜に脂質沈着や線維化からなる粥腫(アテローム)が形成され、動脈の硬化や狭窄が起こる疾患です。鳥類ではオウム・インコ類において最も発生が多く、罹患率は報告により異なりますが、最大90%程度とする報告もあります。加齢と雌性は病態発生と相関性があり、その他に高コレステロール血症、脂質の多い食餌、運動不足、甲状腺疾患などがリスクファクターと考えられています。この疾患は突然死を起こすことが多いですが、臨床的にうつ血性心不全、呼吸困難、神経症状等を呈することもあります。これらの症状は主要動脈の狭窄に続発すると考えられています。肉眼的には図1に示すような動脈の硬化が認められます。組織学的に、この硬化性病変は動脈壁における泡沫細胞の浸潤や基質の沈着と一致します(図2, 3)。進行病変では、粥腫はコレステリン沈着、石灰化、軟骨化生などを伴うこともあり、画像検査で検出されることもあります。

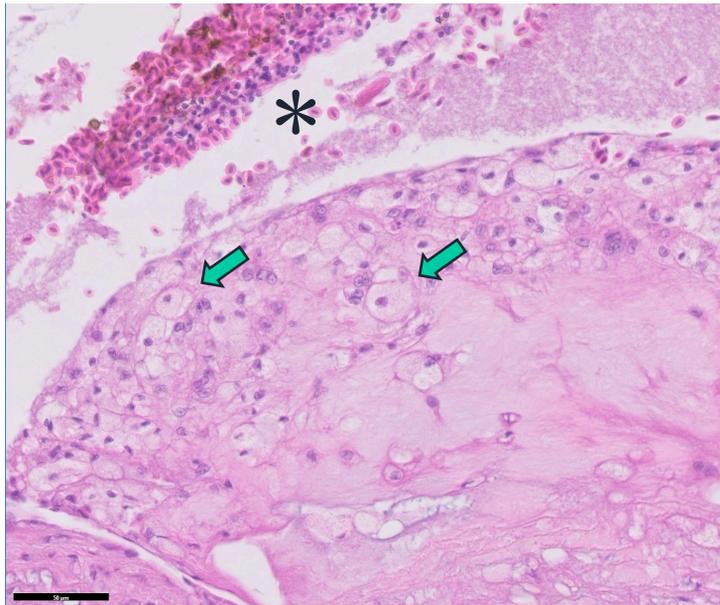


図 3. 左側腕頭動脈縦断像, 組織写真, 高倍像. 粥腫(アテローム)は泡沫細胞(矢印)と呼ばれる脂質貪食マクロファージの浸潤や好酸性基質の沈着から構成されます。*は動脈の内腔を示します。

診断医からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

粥状動脈硬化症はIDEXXに送付されてくる鳥類の剖検症例では最も良くみられる疾患で、臨床の先生方も馴染み深いと思います。この疾患は突然死を起こすことが多く、高齢のオウム・インコ類の突然死例では、心臓や主要動脈の検索も有用だと思われます。院内剖検を実施する場合、可能なら心臓や大型動脈まで肉眼観察や組織検査用の採材を行ってみてください。



診断医: 平島 瑞希
DVM, PhD, DACVP,
DJCVF

参考文献

1. Beaufreere, H. Journal of Exotic Pet Medicine. 2013;22(4):336-347.
2. Pathology of Pet and Aviary Birds, 2nd Edition. 2015. Wiley-Blackwell.